

消防の志場

たんごの風 30号

119

火災・救急・救助

代表 62-0119

総務課 総務係 62-8119

管理係 62-8129

予防課 62-5119

土砂災害



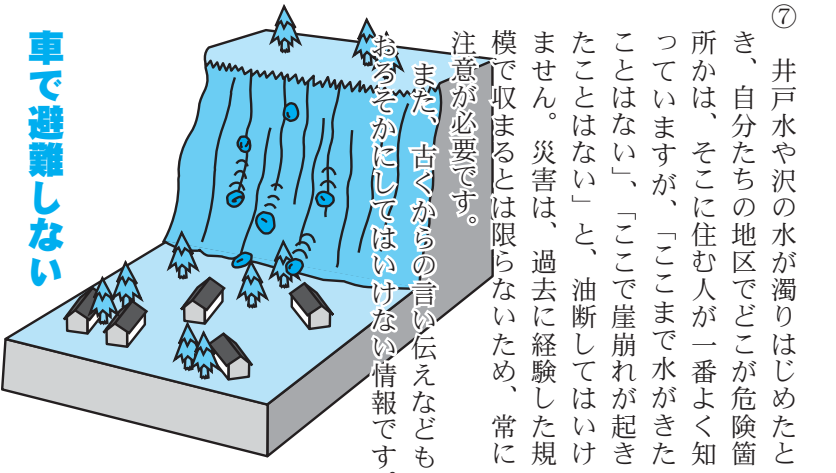
日本は水害の多い国です。毎年、台風や集中豪雨により各地で被害が発生しています。大雨の発生が長期的に増加する傾向にあるのは、地球温暖化が影響している可能性があります。地球温暖化が今後進行すると、さらに大雨の発生数は増加すると予測されています。

気象観測が発達し、精度の高い情報が得られるようになった今日でも大きな被害が絶えません。台風や集中豪雨などによって発生する堤防の決壊や崖崩れ、土石流、また地すべりなどの災害に対してどんな対策を取るのか、自然の猛威から身を守るために、またその被害を最小限に食い止めるためにはどうすればよいかを考えてみましょう。

油断は禁物です

地震などの災害は突然やってきますが、台風や豪雨は天気予報などで事前に災害を予想することができます。天候の悪化とともに普段との様子の違いや前触れ（前兆現象）がみられることがあります。いつも前兆現象があるとは限りませんが、次のような状態がみられるときはすぐに避難しましょう。

- ① 崖から小石がパラパラと落ちてきたとき。
- ② 家、地面、よう壁、斜面にひび割れができたとき。
- ③ 斜面や崖から水が急に噴出したとき。
- ④ 雨が降っているのに川の水が急に減りはじめたとき。
- ⑤ 山全体がうなっているような音（山鳴り）がするとき。
- ⑥ 川の流れが急に濁ったり、流木がたくさん流れてきたとき。



車で避難しない

車での避難は、風雨に体がさらされないから安全と考えますが、車が川に転落したり、水没して脱出できずに亡くなった事例があります。また、タイヤの半分程度浸水すると、ブレーキが利きにくくなります。さらに、ドア上一〇センチから二〇センチまで水がくると、水流がある場所では車が流されてしまい危険です。もしも路面冠水がはじまったら無理せず車を高台に移して水が引くのを待ち、移せない場合には車を歩道側に寄せて駐車し、車から離れて歩いて避難しましょう。

ごしせと違えます

普段見慣れた場所も、増水などで水に浸かってしまうと景色が一変してしまいとても危険になります。杖や長い棒などを利用し足元を確認しましょう。また、避難するとき長靴だと水が入ってしまい脱げたり重くなったりして歩きにくくなります。できれば紐でしっかり結べる運動靴で避難してください。歩ける深さは、腰の辺りまでが限界と言われています。腰まで水に浸かるようなら無理せず高い所で救援を待ちましょう。



助け合うことが大切

先にもありましたが、台風や豪雨は天気予報などで事前に接近を知ることができず、危険な情報があった場合、「危険なところに住んでいる」という認識を持ち、早め早めに避難することが命を守るための基本です。また、高齢者のかたや小さなお子さん、体の不自由なかたなどは、さらに早めの避難が必要です。自分や家族の力では限界があり万全とは言えませんが犠牲者を出さないよう、周囲の人への声かけや、避難の際の介助など隣近所協力しあうことが必要です。

事前に点検してください

台風がまだ遠くにあるときでも突風が吹くことがあります。接近してからの準備は危険です。事前に準備してください。

- 雨どいの詰まりはないか。
- 瓦が割れたり、トタンがめくれかけていないか。
- 塀にヒビが入ったり、崩れかけていないか。
- 樹木の枝が折れかかり電線に触れていないか。
- 植木鉢や物干し竿など、飛ばされそうな物は室内に取り込むかしっかり固定できているか。
- アンテナなどしっかり固定できているか。
- 雨戸を閉め、ない場合は戸や窓の隙間にテープを張るなどの補強、修理ができているか。
- プロパンガスや室外機はしっかり固定できているか。
- 周囲にぐらついた看板や標識がないか。
- 家族で万が一の時の避難場所と避難コースを決めてあるか。
- 停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオなどを用意しているか。
- 非常持ち出し袋などを用意し、いつでも避難できるように準備できているか。
- 断水に備えて、飲料水や生活用水を数日分確保できているか。
- 高齢者、乳幼児、障害のあるかたなどをできるだけ安全な部屋に移す準備はできているか。

救急一〇メモ

熱傷(やけど)

冷やすことが基本です

やけどは、みなさんも一度は経験したことのある身近な『ケガ』です。やけどは、炎など高温のものに触れて起こる場合と、カイロなどの低温のものでも長時間触れ続けるとやけどになる場合があります。やけどはⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度と症状を分けます。Ⅰ度は発赤(赤み)・熱感・痛み、Ⅱ度は水泡(水ぶくれ)・痛み、Ⅲ度は壊死(損傷部位の細胞が死んでしまう)・痛み無しです。



救急救命士 藤野 光磯

やけどをしたときは、すぐに水道水を流しっぱなしにして一〇分以上を目安に患部を冷やしましょう。冷やすことで痛みや炎症反応を抑える効果があります。また、水ぶくれを破ってしまうと痛みが強くなったり、細菌が入ってしまう、治るのにも時間がかかりますので破らないようにしましょう。

住宅用火災警報器の詳しい設置方法などは

京丹後市消防本部予防課(☎62-5119)または、最寄りの消防署にお問い合わせください。

京丹後市消防本部ホームページもご覧ください <http://www.city.kyotango.kyoto.jp/kcfd/index.html>